

データ駆動型の米流通を創造する

スマート・オコメ・チェーン コンソーシアム

設立大会（7月予定）

登録受付中



生産から消費に至るまでの情報を連携し、生産の高度化や販売における付加価値向上、流通最適化等による農業者や米関連事業者の所得向上を可能とする基盤をコメの分野で構築し、これを活用した民間主導でのJAS規格制定を進めます。



生産から販売までのデータ連携により、コメの高付加価値化を推進

登録方法

- コンソーシアムにご関心のある方や参画を希望される方は、HPより連絡先等をご登録ください。
- コンソーシアムでは海外調査や国際ワークショップの開催、WGの設置と実証等を進める予定です。
- 詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/okomechain.html>

事務局：農林水産省 政策統括官付穀物課 米麦流通加工対策室

TEL 03-6744-1392 / E-MAIL okomechain2021@maff.go.jp

（共同事務局：公益財団法人 流通経済研究所 農業・環境・地域部門）

スマート・オコメ・チェーンの 情報の流れ(イメージ)

生産者・集荷事業者

① 生産者等は、玄米の
個品識別番号とそれに
紐づく情報をAPIで農業
データ連携基盤に接続
(その情報にアクセスで
きる者を設定できる)。



合理的なサンプリング方式
の下で玄米品質を把握

個品識別番号と
それに紐づく玄米データ

SFPの規格に整合し、コンソーシアム
で整理するフォーマットで統一

個品識別番号
14桁の事業者番号+11桁の
シリアル(又はロット)No.

(01)04912345123459(21)12345678901

玄米データ

01 産地	02 品種
03 産年	04 容積重
05 死米	06 着色粒
10-15 食味関連指標	
20-29 栽培関連指標 等	

玄米情報
の発信

① API

フィードバック

API

卸

② 卸等は、農業データ連携基盤にAPIで接続して玄米の情報を入手。

玄米情報
の入手

② API

精米等(米粉・酒米を含む)

③ 卸等は、精米等の個品識別番号や付与する情報に関するフォーマットに基づき記録された情報をAPIで農業データ連携基盤に接続(その情報にアクセスできる者を設定できる)。
〔 精米等情報に原則玄米情報を含めることができる。 〕

精米等情報
の発信

③ API

フィードバック

小売事業者

④ 小売事業者等は、農業データ連携基盤にAPIで接続して精米等に
係るデータを手。

精米等情報
の入手

④ API

商品への
情報の付与

⑤ 小売事業者等は精米等の特徴等に関する情報を(必要な範囲で)消費者に公開。
新たなJAS規格の制定後は、JASマークを貼り付けることも可能。



評価の
フィードバック

⑥ 小売事業者や卸等は、玄米・精米等に関する評価を農業データ
連携基盤を通じて生産者等にフィードバック。

⑥ API

農業データ連携基盤
(スマートフードチェーンプラットフォーム)

※ 内容についてはイメージであり、コンソーシアムで検討いただくこととなります。

SIPで開発中のスマートフードチェーンプラットフォーム(SFP)と スマート・オコメ・チェーンの関係について

スマートフードチェーンプラットフォーム (SFP)

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)では、2018年度より農業データ連携基盤(WAGRI)の機能を育種・生産から販売・輸出・消費まで拡張することにより、スマートフードチェーンプラットフォーム(SFP)を構築中(2022年まで)。農産物の川上から川下までの情報を連携させるための基盤技術の開発が進められています。

主な内容は以下のとおりです。

- 農業データ連携基盤と生産・加工・流通・販売・消費の情報を接続するためのAPI(アプリケーション・プログラミング・インターフェイス)の開発
- 個品識別コードの仕様検討
(2019年仕様確定済み)
- 情報の読み取り・表示システムの構築
- フードチェーン情報公表JASの検討
(メロン、ブドウ、レタス)

これまでの研究成果はこちら

スマートフードチェーン国際シンポジウム2020 レポート

<https://www.wagri.world/jp/symposium/report/>

スマート・オコメ・チェーン

SIPの基盤技術をコメの分野で活用し、生産から消費に至るまでの情報を連携し、生産の高度化や販売における付加価値向上、流通最適化等による農業者や米関連事業者の所得向上を可能とする基盤をコメの分野で構築します。また、これを活用した民間主導でのJAS規格制定を進めます。

想定される内容は以下のとおりです。

※SFPは令和4年まで開発予定のため、連携して検討を進めます。

- コメの特徴や流通形態を踏まえたコメの分野における効果的なデータ連携・活用方法の検討
 - コメの個品識別番号の付番方法のルール化(SIP規格に準拠)
 - コメの個品識別番号毎に紐付ける情報のフォーマット(内容・順序)
 - コメに係るスマートフードチェーンを活用した民間規格(JAS等)原案の作成
 - その他、生産から消費に至るまでの効果的な情報連携・活用に必要な事項
- ※ コンソーシアムにおいて具体的な活動内容を決めていただくこととなります。

コンソーシアムの活動スケジュール(予定)

令和3年7月

設立大会

夏～年内

海外の規格調査

7月～8月

参加企業・団体募集(随時)
参加企業・団体からの情報提供(随時)

9月

ワーキンググループの設置・検討(複数)

年内

国際ワークショップの開催

令和4年度

JAS規格素案の作成・現場実証等

令和5年度

令和5年産米からの利用開始(目標)

スマート・オコメ・チェーンのメリット

スマート・オコメ・チェーンを活用することにより、特定の企業間の情報連携に留まらず、情報の発信・利用を行いたい生産者・集荷事業者・卸・小売等が、自ら設定した範囲で、簡単にデータ連携を行うことが可能となります。

これにより、以下のようなメリットが想定されます。

生産者・集荷業者

- ・ 自らのコメの品質をデータ化し、（自らが設定した範囲内で）広く卸・小売に情報共有することができる。
- ・ 新たな販路を開拓したり新たな価値を付けることが可能となる。
- ・ 卸や小売からのフィードバックを得ることで、取引先や消費者の評価を踏まえた営農改善ができる。

卸

- ・ 求める玄米の特徴に合致した栽培等を行う生産者・集荷事業者を見つけて取引することができる。
- ・ データ化された玄米の特徴に応じた精米加工ができる。
- ・ 小売等からのフィードバックを得ることで、品質改善につなげることができる。

小売

- ・ 特徴について、データで把握することができる。
- ・ 玄米・精米の品質やトレーサビリティに係る情報がデータでわかる。
- ・ 消費者に多様な情報を提供し、ニーズに合った米を販売することができる。

具体的に、どのようなメリットが想定されるのかについては、今後設置するワーキンググループによる検討・実証等を通じて明らかにしていきます。